

(1)



# 伊都消防署便り

平成 29 年 3 月 1 日  
編 集 と 発 行  
伊 都 消 防 組 合  
伊 都 郡 かつらぎ 町  
妙 寺 126-12  
TEL 0736-22-0119  
FAX 0736-22-1215

第 4 1 号



- P 2 消防長のあいさつ  
感謝状贈呈
- P 3 平成 28 年の主な行事
- P 4 新人消防士の決意
- P 5 住宅用火災警報器について  
新規導入軽四輪救急車紹介  
消防職員意見発表・消防機器開発
- P 6 防火ポスター
- P 7 防火標語  
防火パレード
- P 8 次長退任の挨拶 ~消防人生我が人生~  
消防白書

平成28年度全国統一防火標語

消しまししょう その火その時 その場所で

消防長あいきり



消 防 長  
益 田 光 則

住民の皆様には、消防行政の推進に深い御理解と御協力を賜っており、心から厚く感謝を申し上げます。

さて、昨年の火災件数は11件と前年より5件の増加となりました。当消防本部としては、火災を最小限にいとめるため、消防技術、体力の維持向上はもとより、消防団との連携体制を更に強固なものにするともに、火災予防対策の充実及び消防力の充実強化を図ってまいります。

救急件数は、1,800件を超え過去最高の件数となりました。増え続ける救急出動件数に対応していくためには、救急患者を受け入れていただく医療機関の確保は重要な課題であり、全国どの消防本部でも苦慮しているところであります。

しかし、当消防本部管内につきましては、伊都・橋本地域の医療機関の御理解と御協力、スタッフの皆様

の熱心な取組によりまして、救急搬送の約9割が同地域の医療機関に収容されており、長距離搬送による傷病者への負担軽減に繋がっております。今後も医療機関と連携を密にし、救急隊員の知識と技術の向上に努め、住民の皆様信頼される救急業務に努めてまいります。

近年、気候や社会情勢の変化により災害は複雑多様化し、かつて経験したことのない災害が全国各地で発生しております。また、近い将来、南海トラフと中央構造線での巨大地震の発生が危惧されております。当消防本部は、関係機関、消防団、住民の皆様と力を合わせて防火・防災に取り組む地域に密着した消防であるとともに、全職員がその知識・技術を結集して、あらゆる災害に立ち向かう「力強い消防」を更に目指してまいります。

今後も、職員が一丸となり、なお一層努力してまいりますので、皆様の御理解と御協力を心からお願いいたします。

最後になりましたが、皆様の御健勝、御多幸をお祈り申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

感謝状贈呈

団結した初期消火」を称え

笠田高等学校 生徒 十五名  
教職員 二名  
笠田中学校 生徒 七名

平成二十八年八月十一日、かつらぎ町笠田高等学校北側休耕田において発生した出火事故に際し、燃え盛る炎に直面しながらもその身を顧みず、見事なバケツリレーにて迅速な初期消火を実施していただいたおかげで、大火には至りませんでした。

二十四人の勇敢な行動と功績を称え、伊都消防組合消防本部消防長感謝状を贈呈しました。



笠田高等学校生徒及び教職員



笠田中学校生徒

伊都消防組合・消防署の  
昨年の主な行事

一月 伊都消防組合管理者特別点検

消防出初式

文化財防火デーに伴う消防訓練参加

二月 伊都高校 インターンシップ実習実施

三月 春季全国火災予防運動実施

四月 橋本・伊都地域消防指令センター運用開始

新規採用職員任用式 和歌山県消防学校入校

初任教育 第四十期

五月 かつらぎ町新規採用職員研修

六月 和歌山県消防救助技術会参加

心肺蘇生法講習会（保育所・幼稚園・小学校等）

九月 笠田中学校及び笠田高校感謝状贈呈式

消防職員採用試験実施

救急週間に伴う看護師等の救急車同乗研修

普通救命講習開催（一般住民対象）

十月 緊急消防援助隊近畿ブロック訓練参加

和歌山県消防職員意見発表参加

笠田中学校、妙寺中学校及び九度山中学校

職場体験学習実施

十一月 大規模地震等災害対応実践訓練参加

秋季全国火災予防運動実施（独居老人宅防火訪問）

十二月 年末火災特別警戒実施



〈普通救命講習〉



〈文化財防火デーに伴う消防訓練〉



〈伊都高校インターンシップ〉



〈かつらぎ町新規採用職員研修〉



〈救急週間に伴う救急車同乗研修〉

新人消防士

決意



庵上 皓星

伊都消防組合に採用され、半年間の初任教育、更に2か月間の救急標準課程と、合計8か月間、消防学校で様々なことを学びました。訓練や座学で教わる知識、技術の数々を同期の仲間と助け合いながら、教えあつたりして共に学んできました。また、寮生活をしているうちに生活面でも多くの学ぶことがあり、辛いこと、苦しいこともありましたが、それ以上に、仲間の大切さ、絆、思いやり、一人一人の大切さなど、多くの事を学ぶことが出来ました。そして、多くの仲間と過ごす内に、自分を見つめ直す時間も大切に始め、長所や短所を発見したり、改善する良ききっかけにもなりました。私は将来、救急救命士の資格を取得し、救急現場で活躍したいと思っています。そのため、日々勉学に励み、多くの救命に携わりたいと思っています。今は先輩方に劣る点ばかりですが、先輩方の熱い指導のもと、多くの事を勉強させていただき、知識・技術をより多く、自分のものにして、先輩方に追いつく、又、追い抜く事を目標とし、頑張りたいと思えます。より多くの安心・安全を地域の方々に感じて頂けるよう日々鍛錬を怠ることなく、努力を積み重ね、精進していきたいと思えます。



児玉 宗二郎

私は中学生の時、東日本大震災のニュースを見ていた時、「かわいそう。」「津波は怖いな。」という気持ちになったものの、「和歌山県から遠く離れた所で起こっている事だ。」と今ひとつ実感が湧きませんでした。しかし、繰り返し映像を見ていく中で、あの悲惨な状況の中、自分の命をかえりみず活動している消防士を見て、「目の前の命を救える仕事したい。」「この町を守りたい。」と思うようになり、消防士になる事を志しました。そして伊都消防に採用が決まり、和歌山県消防学校で半年間、県下56名の新人消防士とともに消防の基礎を学ぶ初任教育を修了してきました。厳しい訓練ばかりで、心が折れそうになる事もありましたが、仲間がいたから乗り越えられた事も多々あり、この半年間は自分を大きく成長させてくれました。初任教育を卒業して間もなく、救急車に乗るための知識や技術を学ぶ救急課程に2か月間行かせていただき、命の尊さを改めて実感することが出来ました。12月から勤務に就いていますが、日々の訓練の中で自分の未熟さを感じ知らされ、まだまだ現場では通用しないことを痛感させられます。

最後に、消防という職業に誇りを持ち、感謝を忘れず、地域の皆様の安心と安全を守ることが出来る消防士になれるよう、ひとつひとつの現場で最善を尽くす事を誓います。



松本 勇大

昨年の4月に伊都消防組合に採用され、10月までの半年間、和歌山県消防学校で消防士として必要な技術、節度や業務に従事する姿勢など幅広いことを訓練や座学、寮での集団生活の中で学ばせていただきました。この半年間はとても厳しいものでしたが、県内の新人消防士の仲間たちと支えあい、切磋琢磨する中で、チームワークの大切さを身をもって感じる事が出来ました。

12月から正式に消防署で勤務させていただいていますが、先輩方の知識や経験の豊富さに日々圧倒されます。また、自分の未熟さを実感しながら生活しています。しかし、現場に出れば新人消防士もベテラン消防士も関係なくミスは許されません。これから多くのことを先輩方から吸収し、自分のものにして、少しずつ成長していきたいと考えています。今後より一層の訓練を積み、住民の方々に安心を届けられる消防士になれるよう日々精進していきたいと思えます。

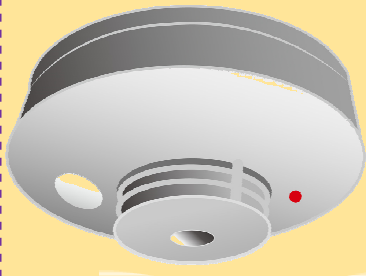
伊都消防組合消防職員を目指す

たくましい体

せむし心



# 住宅用火災警報器について



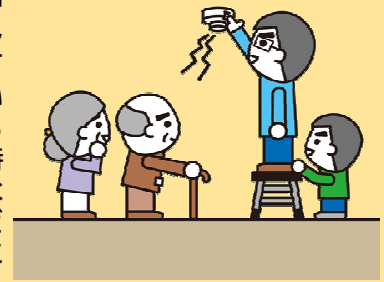
「住警器」を  
設置しよう！

交換の目安は  
10年です！



近年、住宅火災において、住宅用火災警報器を設置していなかったため、逃げ遅れによる死傷者が多数発生しています。家族の命、自分の命を守るために、住宅用火災警報器を設置しましょう。

目で煙や炎をみたり、鼻で焦げ臭いにおいを感じたり、耳ではちびちびという音を聞くことで気付くことがほとんどだと思います。しかし、それだけでは、就寝中や仕切られた部屋などで物事に集中している時などには、火災に気付くのが遅れてしまいます。そこで、家庭内での火災の発生をいち早くキャッチし、知らせてくれるのが、住宅用火災警報器です。住宅用火災警報器は、火災により発生する煙を感知し、音や音声により警報を発生して火災の発生を知らせ逃げ遅れを防ぐ機器です。



## 軽四輪救急車導入



平成29年1月から運用を開始した軽四輪救急車です。

当消防管内は山間地が広範囲を占め、市街地についても道路の幅員が狭く従来の救急車では進入が困難で、長距離のストレッチャー搬送が余儀なくされます。少しでも現場到着時間を短縮するために、軽四輪自動車にストレッチャーを搭載し、悪路でも走行できるように四輪駆動式を採用、また車内で心肺蘇生が可能なスペースも有しています。

この車両を導入することで、これまで以上に救命率の向上に役立つものと考えています。なお、乗車定員に制限があるため、家族の同乗ができない場合があります。

## 意見発表



昨年10月に開催された、和歌山県消防職員意見発表会に

伊都消防組合消防本部の代表として、松浦巧消防士が出場しました。発表では、「防災の連鎖」というテーマで、住民と消防が一体となり安全な街をつくりあげingことを訴え、入賞しました。

## 消防機器開発発表

昨年7月に開催された和歌山県消防職員研究発表会に当消防本部の代表として2作品を発表しました。

作品1 「頸椎カラーの補助器具の開発」

作品2 「ミニパイロンを使用した現場案内標識」

両作品とも、入賞しました。

平成28年度 防火ポスター入賞作品

特選・優秀作品



坂本 茉莉花 さん  
大谷小学校



牧野 佑亮 さん  
九度山小学校



木下 敬太 さん  
高野口小学校



武田 隼 さん  
妙寺小学校



前田 心寧 さん  
妙寺小学校



山本 百華 さん  
妙寺小学校



山本 紗織 さん  
九度山小学校



山本 一凜 さん  
梁瀬小学校



平岡 日向 さん  
妙寺小学校



西本 穂乃果 さん  
応其小学校



若井 俊希 さん  
応其小学校



森口 翔月 さん  
信太小学校



松下 幸太郎 さん  
笠田小学校



長谷場 惺加 さん  
笠田小学校

少年期から防火に対する知識を身につけ、家庭及び学校生活において火災予防の徹底を図ることを目的として、管内の各小学校4年生を対象に防火ポスター、5年生を対象に防火標語を募集したところ、多数の応募をいただきました。  
これら応募作品を、厳正に審査したところ次の方々が入賞されました。



消防人生 我が人生



次 長  
堀 誠良

私は昭和55年4月に採用され、伊都消防第1期生として消防人生が始まりました。

振り返れば、世間知らずの23才で、消防学校に入校、消防の事は何も分からず「見るもの、聞くもの」すべてが初めてのことはかりでしたが、教官の指導と仲間である同期の励ましもあり、10月に卒業、消防士として配属されました。

伊都消防のスタートということ、現場経験のある先輩もいない中、出勤指令が鳴るたびに心拍数が上がっていたことを覚えています。

あれから37年がたち多くの火災、救急、救助等の災害現場で活動してきました。現場では沈着冷静に、そして、安全、確実、迅速な活動を心掛けていました。現場から帰ってからは、いつも一人で反省していたことを思い

また、現在は橋本・伊都地域消防指令センターが開設されておりますが、当時は通信指令業務も行っており、災害通報がないことを祈りながら勤務に就いていたものです。

一番記憶に残る災害は、平成27年の九度山町で発生した建物13棟が焼損した伊都消防始まって以来の大火です。

現場へ到着した時には、西風にあおられて延焼中で、伊都消防だけの消防力での制圧は難しい状況でした。その後、次々と到着する消防団と連携、協力し、遠距離送水による水利の確保、放水口数の増強により火災を鎮圧することができました。

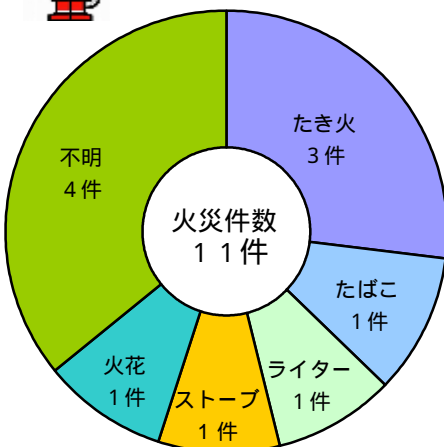
この時は、消防用資機材の性能、技術力がいくらか向上しても、人員が圧倒的に多い消防団のマンスパワーの重要性を痛感しました。

私自身、退職まで秒読み段階となりましたが、これから伊都消防の屋台骨を支えることになる職員には、信念をもって日々の業務に当たり、伊都消防の発展に努めてもらいたいです。住民が安心して暮らせる街づくりこれは永遠のテーマです。

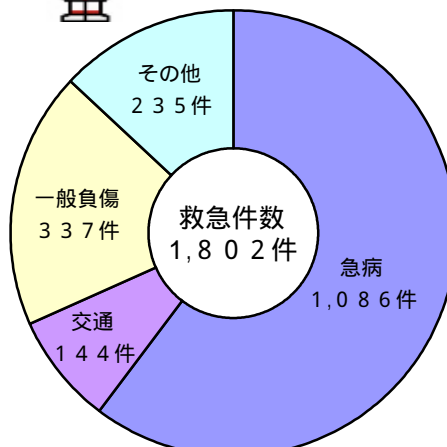
消防白書（平成28年）



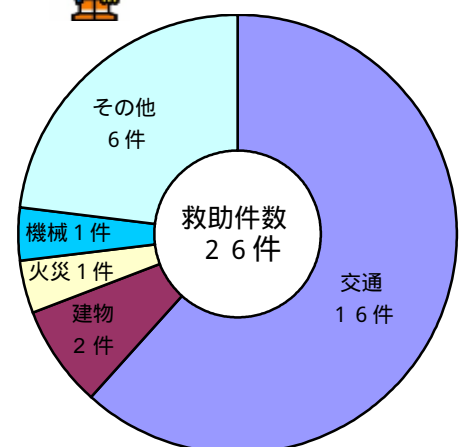
火 災



救 急



救 助



市町別 災害別	かつらぎ町	橋本市高野口町	九度山町	管 外	合 計
火 災	7件	3件	1件		11件
救 急	919件	595件	281件	7件	1,802件
救 助	16件	4件	5件	1件	26件